

勝連城内拝所

御嶽

伝統的な琉球の信仰体系において、御嶽は神が住む、または訪れると信じられている神聖な場所です。御嶽はしばしば岩、洞窟、木立、泉など、自然に存在するものに関連付けられており、起源は謎に包まれているものの、多くの御嶽は何世紀にもわたって崇拝の場所として使用されてきました。御嶽ではノロと呼ばれる世襲制の女性祭司によって祭祀が行われ、地元住民も供物を捧げます。

勝連城にはいくつかの重要な御嶽があり、それらは全て現在でも礼拝に使われています。これらの場所に敬意を払うようにしてください。

玉ノミウチ御嶽

この御嶽は、城の一番上の曲輪の中心部にある、霊力が宿っているとされる巨大な岩を祀っています。かつてこの岩の上には神聖な建物が建てられていたかもしれません。伝説によると、石の片側にある洞窟の入り口は、下の二の曲輪にあるウシヌジガマに通じており、緊急避難に使用されたそうです。

火之神

琉球土着の信仰において、火之神は火を司る神様です。遠い昔、火之神はすべての村の女性司祭にそれぞれの村にカマドを作るための火を与え、村のすべての世帯はそこから各家の囲炉裏を照らす火を受け取るよう定めたとされています。火は家とそこに住む人々を守ると信じられており、今日でも多くの沖縄の家には台所に火之神を祀る小さな神棚があります。ここには、水の入った器、塩を盛った器、泡盛（沖縄の酒）、常緑樹の枝、お香が置かれます。勝連にあるような高貴な炉は、特別な地位と重要性を持っており、統治者一族、延いては王国全体を守るものであると信じられていました。この神聖な場所は、神を祀るものとして存在しつづけています。

ウシヌジガマ

ガマ（天然の洞窟）は沖縄本島の南部全域で見られます。ウシヌジガマは「身を隠し凌ぐ洞窟」という意味で、多くの洞窟同様、神聖な場所とされています。伝説によると、1458年に勝連が琉球王国の軍隊に攻撃されたとき、城主阿麻和利はこの洞窟を抜けて、上の一の曲輪にあるタマノミウチ御嶽から脱出し、読谷山間切に逃げたとされています。

肝高の御嶽/トウヌムトゥ

この御嶽は、女性祭司が豊穡を祈る儀式が年に数回行われる場所です。御嶽の隣には、祭司たちが儀式の際に座る簡単な石の椅子が、L字型に十個並んでいます。口承によると、若者が「イユコーンソーリー」という特

別な文句を叫び、神に向かって「魚をたくさん売ることができますように」と願いを込めて呼びかけていたそうです。
儀式は 15 世紀に始まり、今日でも続いています。